

私保連 とくしま



発行：徳島県私立保育園連盟
 発行人：会長 亘 安美
 〒770-0943
 徳島市中昭和町1丁目2番地
 徳島県立総合福祉センター内
 tel.088-654-4461 fax.654-9250
 印刷：教育出版センター

園庭で虫さがし



(十四面に続く。前川乳児保育園)

もくじ

県子ども未来課 課長挨拶 P2
 県私保連 会長挨拶 P2
 保育士の確保と定着 P3
 ブロックだより P3
 部会報告 P4
 ホームページについて P5
 青年会議 活動報告 P6
 新園(所)長紹介 P7
 男性保育士！じゅずつなぎ P7
 活躍！主任保育士さん P8
 いきいき保育士さん P9
 健康な笑顔を守って…看護師さん P9
 子育て真っ最中！ママ職員 P11
 「いただきます」を支えて P12
 あわあ保育園めぐり P13
 すこやかに大きくなあれ P14



公園へのおさんぽ

「子ども・子育て支援新制度に向けて」



徳島県保健福祉部福祉こども局こども未来課

課長 山口 憲明

平成二十七年からの本格施行が予定されている「子ども・子育て支援新制度」への移行に向け、現在、国、都道府県及び市町村において様々な準備が進められております。

国におきましては、「子ども・子育て会議」を中心に、新制度の基本指針をはじめ、保育の必要性の認定基準、新たな幼保連携型認定こども園の認可基準等の検討が行われ、その多くが政・省令等の形で示される予定となっております。

一方、各市町村におきましては、地方版「子ども・子育て会議」を設置し、新制度の実施計画となる「子ども・子育て支援事業計画」の策定に向けた検討を進めるとともに、子育て家庭を対象としたニーズ調査を実施し、現在、その結果に基づき、保育等の必要量の算定作業を進めているところです。

また、県におきましても、県版「子ども・子育て会議」を昨年八月に設置し、県全体の実施計画となる「子ども・子育て支援事業支援計画」の策定に向

けた検討を進めるとともに、市町村への情報提供や相談・支援に努めているところです。

なお、新制度におきましては、保育所への入所要件の緩和等に伴い、保育所等を利用する子どもが増加し、保育を支える保育士のさらなる確保が必要となることが想定されます。

そこで、保育事業者、保育士養成施設等の方々との協議の場である「保育行政連絡会」において、有効な保育士確保策を検討するとともに、できるものから積極的に実践して参りたいと考えております。

新制度の本格施行まであと一年となりましたが、円滑に移行することができるとともに、保育事業者の皆様をはじめ、関係者の方々と緊密に連携しながら準備を進めて参りたいと考えておりますので、今後とも、御理解、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

「保育をめぐる動向について」



徳島県私立保育園連盟

会長 巨 安美

「子どもの権利条約」を日本政府が批准してから二十年。それを受けて保育所保育指針には「入所する子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進すること」が目的として記され、平成二十七年から施行の新しい制度の検討を行っています。

また、子ども・子育て関連三法に基づき設置される新たな幼保連携型認定こども園における「保育要領」の検討が進められています。第三回の検討会では、関係団体でのヒアリングが実施され、このヒアリングにおいて、保育には教育が含まれており、養護と教育が一体となって行われることが重要であること、そして保護者支援・地域の子育て支援といった役割・機能を盛り込むべきであることが大切であると

言われています。また、平成二十四年度の補正予算では、「保育士等処遇改善臨時特例事業」

が実施され、このことにより、私達の後に続く若い人たちが誇りと責任をもって、この仕事に携わっていただけるよう今後も保育士の確保問題と共に、保育士の給与と・処遇の改善が続いて実施されることを願っています。

先日の二月二十七日に全国保育会館での代表者会に出席して参りました。昨年末に子ども・子育て会議で取りまとめた要望を保育三団体協議会名で内閣府に提出した事を聞き、これからの保育三団体が一丸となって日本の子どもの未来の幸せのため団結していかなくてはと強く感じました。



保育士の確保と定着

徳島県社会福祉協議会

福祉人材センター 寺西 彩

徳島県社会福祉協議会福祉人材センターの寺西でございます。

日頃は、事務局として皆様にお世話になっておりますが、今回は福祉人材センター「アイネット」(以下、「アイネット」という)における、保育士の就職支援の取組について紹介をさせていただきたいと思います。

セミナーや面談会の開催など

近年、アイネットでは事業所の皆様から福祉人材の確保や定着の難しさをよく伺います。その中でも、保育士に関しては、本年度発表された「待機児童解消加速化プラン」や、平成二十七年四月から本格施行が予定されている「子ども・子育て支援新制度」により、保育ニーズの増大が予想される中、今後さらに安定的な確保・定着を図ることが必要となります。

こうした課題に徳島県でも

本腰を入れて取り組むため、アイネットでは平成二十六年度より、保育士に特化した就職支援事業として「(仮称)保育人材就職支援等促進事業」を実施する予定です。

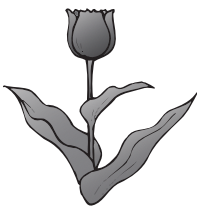
具体的な事業内容としては、保育園(所)における職

- ① 福祉の仕事に就きたい方(求職者)への求人情報の提供や資格の相談
- ② 学生や求職者を対象とした福祉職場体験
- ③ 小中学生を対象とした福祉・介護体験学習事業
- ④ 求職者・事業所のための

場体験や就職面談会、保育園向けの人材確保セミナーなどを通して、将来保育士を目指す学生から保育業務に従事していない有資格者、そして今まさに保育士として働く方まで、幅広く応援できる仕組みを作りたいと思います。

また、こうした取組を広げ、根付かせるためには、行政、養成校、保育園(所)などが各々の持つ力を合わせて「保育の仕事の魅力を発信すること」「保育士を育てる環境をつくること」などが不可欠になります。

アイネットにおいても、試行錯誤を繰り返しながら、事業実施に向けた準備を進めていきたいと思っておりますので、是非、現場の大きな力をお貸しくださいようお願いいたします。



ブロック
だより

徳島ブロック

長澤 紀子

徳島ブロックの、私立保育園連盟加入園は三十五園となっております。

四月十二日に第一回目の園長会が開催され

・徳島市保育課転入、転出者の紹介

・各部(主任保育士会、保健の会、給食部会)の報告

・園長会役割分担

などを決め上野会長を中心に平成二十五年度の活動が始まりました。今年度も、園長会開催時に適宜徳島市より、保育関係事項についての行政説明をもらっています。

また、今年子ども・子育て新制度の勉強会をするというところで「子ども・子育て会議」の委員の青木(青葉)先生に

会議での様子や報告を頂いていただきます。

いつも園長会で話題に上がってくるのが、保育士不足の問題で保育士の定



さしかりどこの園も頭を痛めているようです。

平成二十六年に入り二月六日(木)には、中央卸売市場に於いて「四国地区青森りんごの会」より第十八回目のりんごの贈呈式がありました。今年度も私立保育園三十五園に寄贈していただきました。お礼として、めだか保育園の園児が歌とカンフーを披露し、ミスリングを真ん中に子ども達との記念写真をとりみんな笑顔の贈呈式となりました。

「一日一個のりんごは、医者を超さける」といわれています。皆さんも一日一個のりんごを食べ元気な冬を乗り越えましょう。

(さくら保育園)



部会報告

総務部

松下 直弘

早いもので二月も終わろうとしています。これから年度末・卒園、新年度・入園を控えた園もお忙しいことと推察いたします。総務部は十二月、二月と部会を開催しました。おそらく三月の声を聴きますと「賠償責任保険」「園児保険」の募集が始まります。賠償責任保険については、必ず加入しておいてください。園児保険については、私立保育園連盟の収入源となつていきますから、会費値上げにつながらないよう積極的にご勧誘ください。ある県では、加入の伸びにより素敵なプレゼントを配っているところもあるようです。どうかよろしくお願いいたします。最後にになりましたが、一月元徳島県私立保育園連盟会長、若松保育園前園長 若松定義先生が逝去されました。徳島県の保育界を知る我々にとつては大先輩でありその礎を築

いてくださったお方です。新制度移行を控えたなか、先生はどのような思いでこの保育界をお考えになつていたのでしようか?今となつては計り知ることもできません。少しでも子どものためとなるよう、現場の職員の過大な負担とならないよう祈るばかりです。我々は先生が残して下さった「知恵と和」を守り、いつまでも後世に伝えぬことをお誓い申しあげて挨拶いたします。先生、本当にありがとうございました。合掌!

(のぞみ保育園)

調査部

横手 桂子

平成二十五年度調査部の報告をいたします。

県私保連総会の折り第一回部会が行われ、マスコミ等でも取り上げられた全国的な保育士不足が話題に上りました。国として保育士の確保に向け様々なプランや対策を推進してはいるものの、民間保育園はすでに深刻な人材不足に陥り保育の質に関わる重大

な問題となつていくという意見が出されました。待機児童解消の為の保育園の新設や入所定員の増加が保育士不足に拍車をかけている現状があるものの、保育士有資格者が保育士として就業を希望していない状況や保育士養成校へ入学しながらも保育士を指さない実情について、その理由や原因を知りたいという意見として集約されました。

以後一年間にわたり六回の部会で話し合いを重ね、新卒者の意識や職業を選択する基準について知る等、私達にできることから調査し、早い時期に皆様に報告できるように

いたします。

第二回部会で、鳴門市の板東ゆたか保育園を見学させて頂きました。新築された園舎は園長先生の長年の経験に裏打ちされた工夫が随所に施されており、特に二階のリズム室の大きな窓からは周りの景色が風景画のように綺麗に収まっているのが印象的でした。

第四回部会では、徳島市のおおぎ保育園を見学させて頂きました。子どもの成長に合わせて設えられた乳児室や保育室からは温かみのある雰囲気を感じられました。かわい

でした。園長先生の新園舎への思いとそのご苦勞をお聞きし、感銘を受けました。

第五回部会では、徳島市のわかば保育園を見学させて頂きました。地域の避難所としての機能を備えた設備も見せて頂き、園舎建築の際には地域住民の方々へ配慮をされたことなど説明して頂きました。

調査部では、「すべては子どものため」という思いで今後も部会活動を行っていきます。忌憚のないご意見・ご要望をお寄せください。次年度もよろしく願ひいたします。

(阿南ひまわり保育園)

保育研修部

佐藤 良典

二月四日、五日と全国研修部長会議(盛岡市)に出席させて頂きました。この場を借りてお礼を申し上げます。東日本大震災から三年の月日がたち、来年度は六月十八日、二十日にかけて第五十七回全国私立保育園研究大会が岩手県で開催されます。二〇一五年度は鳥取県、二〇一六年度



は関東ブロックが行う予定で
す。

部長会で聞いた話ですが、
福島第一原発近くの保育園で
は外遊びの時間は三十分、震
災後生まれた子供たちが三歳
を迎えようとするのですが、
外遊びの経験がないので砂場
で遊べないそうです。三・一
一を忘れることなく、たとえ
緩やかでも何年、何十年とい
う長い時間をかけての支援の
必要性を実感しました。

活動報告と致しましては、
今年度合計六回の集まりを持
ちました。県外での施設見学
も実施し、宝塚市にある「や
まぼうし保育園」をお訪ねし
ました。とても都会的な雰囲
気の保育園で、使用されてい
る遊具や玩具なども吟味され
ており、保育環境をとっても大
切にされているのが分りまし
た。

吉本和子園長にも時間を割
いてもらいお話を聞かせて頂
きました。どのような質問に
も「さっさと」お答えくださり、
保育に対する考えの全くブレ
がない点に感心させられました。
宝塚市内の商店街を散策
し、劇場にも立ち寄りまし
た。街を歩く人たちのどこと

なく洗練された感じ、メルヘ
ンチックなマンションの造り
等々から改めて保育の地域性
を学びました。

三月十五日(土)に開催された
研修部会員を講師としての新
任保育士研修会では、保育の
基本は変わらないこと、また
その中に多様な保育の在り方
が存在することを確認し合
いました。来年度はもっと多く
の人に多彩な研修を提供でき
るよう、部員一同研鑽に努め
て参ります。一年間のお支え
有難うございました。

(みどり保育園園長)

広報部

谷口 恵美

広報部会の活動を報告させ
ていただきます。この度は、
「私保連とくしま」の発行に
際しましてたくさんの方々に
ご尽力賜り、第二十一号発行
の運びとなりました。

保育をめぐる、諸情勢か
ら、徳島県子ども未来課課長
補佐 松本光裕様や私保連会
長 亘安美先生をはじめ各園
の取り組みや保育現場や各関
連機関のお知らせなどをお伝

えすることができました。こ
れからも、記事の見直しや広
報誌の活用の仕方など課題を
話し合い、より良い広報誌の
発行に努めたいとおもいま
す。

また、ホームページの検討
会【二〇一三年八月五日(月)】
にて、最終見直しを行い、県
私保連ホームページの充実を
図り、より多くの方に活用し
ていただけるように、ホーム
ページをリニューアルしてい
ます。(関連記事 五ページ
参照)

また、私保連カレンダーの
発行に伴い、編集会議【二〇
一三年十月二十二日・三十一
日】を行いました。今年のイ
ラストは、四国大学附属乳児
保育所の三井弘子先生が描い
てくださり、発行の部数は七
千枚となりました。カレン
ダーについても、活用の趣旨
などを再確認し、皆様と共通
認識の上、配布活用していた
だけますよう、取り組んで参
りたいと思っています。

第三回広報部会・研修会
【二〇一四年一月十六日(木)】
では、「ひなたクリニック」
院長 松岡 優先生をお迎え
して『こども健康セミナー』

「子どもの健康を考えるー
成長・アレルギー・肥満を
考える」と題して、ご講演い
ただきました。二十四名の方
が参会して、研修する中で
も、アレルギー疾患のある子
への対応やエビペンの使い方
を実際にワークしながら学ぶ
ことができました。また、保
育を行う上での健康に関して
の質問もあり、子どもの健康
について深く学ぶことができ
ました。研修会の後、部会を
開きました。助任保育園上野
由弘先生と子安保育園田崎幸
先生から、理事会の報告をし
ていただきました。

中でも、広報誌やカレン
ダー発行についての課題が挙
げられ、次年度の活動につ
いて話し合いました。広報誌や
カレンダーを有意義に活用い
ただけるような記事の掲載や
内容の充実を図ることなどが
話し合われました。
今後とも、広報活動に対す
るご意見、ご要望等ございま
したら広報部までお寄せくだ
さいますようお願いいたしま
す。(彩保育園)

ホームページについて

今年度は、広報部の活
動として、従来からある
徳島県私立保育園連盟の
ホームページを少しリ
ニューアルし、保育園入
園の流れや保育料、保育
士さんに向けて「一緒に
働いてみませんか」、そ
して、加盟園の一覧表と
広報誌「私保連とくし
ま」、リンク集等を追加
掲載しました。

会員の皆様も、是非一
度ホームページをご覧に
なって下さい。

<http://www.tokushakyojp/relate/shoren/>

又は徳島県私立保育園
連盟で[検索](#)

今後より充実した
ホームページとなるよ
う、会員の皆様のご意見
やご要望をお待ちしてお
ります。どうぞ、お気づ
きのことがあれば、広報
部までお知らせくださ
い。

私立保育園連盟 青年会議

県私立保育園連盟青年会議
会長 阿部 浩紀

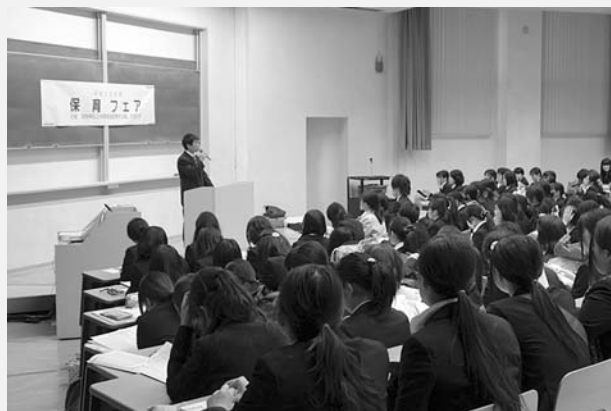
今年度の青年会議は保育内容の充実と職員の確保に重点を置いて事業を行いました。保育内容の充実では、平成25年9月28日(土)に徳島県立文化の森総合公園にて、社会福祉法人子どもの家福祉会理事長赤西雅之先生をお迎えし、「保育変わらなきゃ」との演題でご講演頂き、約160名と多数の参加がありました。講演の中で印象に残ったのは、「今、保護者や若者の育ちが問題となっているが、彼らを育てたのは私たちである」とのお言葉でした。私たち、保育に関わっている者が重く受け止めなければならないと思いました。その他の話題も一つ一つの内容が深く、我々現場の者の心に響く内容でした。

職員の確保については、昨年度行った四国大学との懇談会を足がかりに、私立保育園が取り組んでいる保育内容を学生に説明し理解を深め就職に繋げてもらうことを目的に四国大学で「Tokushima 保育フェア」を開催しました。参加保育園は徳島県私立保育園連盟の26法人41施設、参加した学生は四国大学短大生1, 2年生、4大生3, 4年生で約280人でした。説明は各法人1回あたり10分間で4回行いました。短い説明時間でしたが、保育園、学生共に好評で、アンケートには「私立保育園がこんなに工夫して保育を行っていることは知らなかった。保育フェアに参加して私立保育園への就職を考えるようになった。」「3年生の時に参加したかった。これからも続けて欲しい。」との声がありました。非常に手応えが感じられたので今後も私立保育園のイメージアップを努めたいと思います。

最後に、青年会議は平成27年度に全国私立保育園連盟青年会議の第35回全国大会を徳島県で開催することになりました。徳島県の現会員は16名。意欲溢れる若者の集まりで徳島県らしい大会にするべく準備を進めておりますが、何分経験不足で未熟ですので、経験が豊かな徳島県私立保育園連盟の方々のご指導ご支援を必要としております。どうぞよろしくお願いいたします。



赤西先生講演会



保育フェア

幼児の豊かな生活環境をめざす
徳島チャイルド社

電話 **088-674-6050**

FAX **088-674-8336**

〒779-3234 名西郡石井町石井字白鳥230

フレール館



徳島支店

〒770-8007 徳島市新浜本町2-3-50

坂東新浜ビル3号室

TEL 088-663-6338 FAX 088-663-3396

携帯 090-4338-9940

新園(所)長紹介(園長名五十音順)

※島田保育園※



浦上 公子

平成二十

五年四月に

前園長浦上

脩が急逝

し、その後

を受けて園長に就任致しました。私は、昭和四十九年に当保育園が定員三十名で開園して以来、保育士、主任、副園長と経験を得て現在に至っております。

開園時を振り返りますと、当初は当園周辺は交通量も少なく、のどかな田園地帯で自然があふれておりました。現在の約百五十名の園児と三十名の職員という大所帯ではなく、子ども一人ひとりと、また一大家族にゆつたりとかわり、情報を交換し合い家庭の状況もよくわかりました。正直なところ現在より子ども職員も心にゆとりがあった様に思われます。時代

※若松保育園※



若松 義明

この度、

社会福祉法

人若松保育

園園長に就

任いたします

した、若松義明と申します。

本園は、開園四十二年目をむかえます。多くの子どもたちが本園を巣立っていきました。園長となった今、責任の重大さを痛感し、身の引きしまる思いでいっぱいです。

子どもたちのため、保護者のため、地域の方々のため、そして本園のさらなる発展のために職員の力を結集し社会的使命を果たすよう努めて参ります。

今後より一層のご指導、ご鞭撻を賜りたく心よりお願い申し上げます。

の流れでしょうか。女性が社会に出、積極的に活躍するようになるにつれ、私たち保育者に求められる内容も大きく変わってきました。保育方針も二度三度変わり、延長保育、土曜保育はあたりまえという状況の中で、一日のうちの大半を保育園での集団生活を経験する子どもたちに今、大切なものは何か。今、サポートすべきことは何なのか。前を向き、そして振り返ることも忘れず保育をすすめていきたいと思えます。そして心と体の調和のとれた成長を育んで参ります。

少子化、保育士不足等環境を取り巻く問題は多々ありますが、子どもたちの天使のような笑顔に支えられながら、保育者からも信頼され、地域に愛される保育園を目指して参ります。

今後共、ご指導のほどよろしくお願い致します。

男性保育士！じゅずつなぎ

山本 和也

私は、高校二年生まで次の進路の事をあまり考えず、ただ日々の授業を受けていました。ある日、進路調査として担任の先生と面談する事になりました。そこで、「山本くん、子どもは好きですか？」と聞かれ、「子どもが好きなら子どもに携わる仕事を目指してはどうですか」と言われました。この一言が私の保育士を目指すきっかけとなったのです。

大学の保育を専門とする学科に入り、勉強をする事になりました。初めは子どもが好きというだけで進路を進めていましたが、保育実習や、ゼミで大学付属の幼稚園児と関わる事により、もっと関わり

たい、もっと一緒に過ごしたいと思うようになりました。しかし、それは楽しいだけではなく、忙しく大変な日々でした。就職している今は更に忙しい日々を送っています。登園の際ずっと泣いていた子どもが、今では元気よく登園している姿や、自分の思いを自分の言葉で伝えていく姿を見ていると、子どもと関わる楽しさや喜びは増しているように思え、遣り甲斐を感じています。

人はそれぞれの人生で、自分のやりたい事を探します。私は保育士というやりたい事を見つける事ができました。私は、保育士としての経験、技術共にまだまだ未熟ですが、子どもたちと一緒に自分自身の成長にも繋がるような仕事をしていきたいです。(さくら保育園・石井町)



朝の受け入れ



子どもたちと過ごす日々

活躍!
主任保育士さん

西村あゆみ

「おはようございます。」
子ども達の元気な声が聞こえてきました。一日の始まりです。今日は、どんな事が起こるかな?可愛い笑顔に会えるかな?と、子どもに負けないくらいワクワクするひとときです。

行事に追われ大変だなと思う事もありますが、ある保護者が、「娘が保育所に通っているから、季節の移り変わりに気づいたり、昔からの行事を思い出したりできて、幸せな気持ちになります。」と話



して下さいました。毎日、忙しくしていると忘れがちだとの事。その時の笑顔を見て、保育所は、子どもだけだけでなく、大人もゆったりできる、心の安らぐ場所のだと改めて感じました。仕事を終え、疲れて子どもを迎えに来た時に、ほっとできる温かい場所でありたいと思った出来事でした。



子育てをする環境は、益々変化していきます。私は、三年程、在宅での子育てを経験しており、その中で起こる様々な思いも共感できます。又、職を持ちながらの子育ての大変さもよくわかり、心から

応援したい、少しでも元気に笑顔で子どもとの日々を過ごしてもらいたいと思っっています。どんなに疲れていても、我が子の話をする時の顔は、他のどんな事にも代えられない程嬉しそうで、素敵に見える、安心して、後ろ姿を見送る事ができます。私のほっとする時間です。

そんな子ども達や、保護者と共に過ごす中、落ち込んだり悩んだりしている若い保育士には、昔の自分を思い出しながら、話を聴き、一緒に考えながら、前に進むことができるよう見守り、出産、子育て真っ最中の職員を少しでも支



えることも、私の大切な役割であります。まだまだ力不足ですが、努力していきたいと思っっています。
創立四十周年の年に園舎が新しくなり、定員も増えましたが、巣立っていった、たくさんの子ども達や保護者、地域の方々の心安らぐ場所として、又、今いる子ども達、保護者が、笑顔でいられるよう、皆で力を合わせていききたいと思っっています。
(みずほ保育園)

ワンダーブックの保育用品
世界文化社販売株式会社

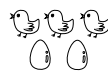
〒770-0802 徳島市吉野本町3丁目16番地2
TEL(088)653-7607
FAX(088)653-7874

子どもにやさしい地球を残そう

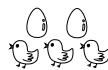
ひかりのくに徳島有限会社

〒779-3404 徳島県吉野川市山川町川田869-4
TEL 0883(42)2220
FAX 0883(42)6300
〒770-0035 徳島市南佐古5番町2-37
TEL 088(652)0350
FAX 088(655)9066





いきいき保育士さん



「県私保連二〇一四年カレンダー」に素敵なイラストを提供してくださった方を紹介します。

三井 弘子

今回カレンダーのイラストを描くことになり、とまどいなながらもチャレンジしました。

私は、絵を描いたり手作りする事が好きなのですが、「私保連のカレンダー」というと、たくさんの方に見てもらうことになるので私の絵で大丈夫だろうかという不安な気持ちがありました。最初はどんな絵を描いたらよいか全く頭に浮かばず、しばらくの間、悩んでいました。期限が近づきフツと浮かんだのが、くまのイラストでした。昔から何かしら描いていたくまのイラストを思い出し、カレンダーを動物の絵にしようと思ったのです。まず一ヶ月ごとに色々な動物キャラクターと季節や行事等を組み合わせて描いていきまし

た。(大好きなくまは二ヶ月登場していますよ!)最後にキャラクターが全員集合し、手をつないで一緒に虹をかこむようにし、仕上がった時は、「あー!できたー!」と、自分なりに満足したので、ほっとしました。それから数ヶ月後、カレンダーとなって

完成し、周りの方々から「かわいい」「早速貼って見てよ」などの言葉をいただき、とてもうれしかったです。そして、私が描いた絵を見て、少しでもほっこりとあったかい気持ちになったり、笑顔になつてこの一年過ごしていただければいいなと思いました。自分自身も良い記念になりました。ありがとうございます。

これから保育する中でも、笑顔を忘れず、いつも子どもにの気持ちになつて楽しい保育をしたいと思ひますし、何より子どもたちが笑顔いっぱい大きく成長してほしいと願っています。

(四国大学附属乳児保育所)



健康な笑顔を守って...

看護師さん

藤倉 優子

去年の三月から保育園の看護師として、保育園で勤務する一年目の新米看護師です。

私自身三人の子供の母であり、保育園にお世話になり、育児、仕事、家事と今まで頑張ってきました。

子供たちも今は小五、小四、小一と大きくなり、小四も丈夫になつてきましたが、幼い時は、熱を出したり、伝染性の病気を患つたりと、フルタイムで病院勤務をしながら大変な日々もあり、家族やいろんな人の支えがあつて、今まで乗り越えてこれまし



います。午後は年長児と一緒にサッカーやドッジボールをすることもあり、元気いっぱいの子供たちからエネルギーを分けてもらっています。

今もインフルエンザが猛威を震う中、当園では職員、保護者共に感染予防に努め、インフルエンザ罹患三名と最小限に治まり感染を広げることなく、発表会には元気な子供たち全員の笑顔を見ることができました。

子供の成長を間近で感じ、園長先生をはじめ、保育士先生の子供への関わりを見て日々忙しく子育てをしていた時の自分を反省しつつ勉強になる事がたくさんあり、「もっと楽しく子育てできたのではないかな?」と思う事がありますが、保育園に子供を預けるお母さんも自分と同じ思いの人もいるかもしれないと思ひます。

子供を保育園に預ける側から、支える側になった私は、子供も幸せで保育園に来て良かったと思えるような環境作りを行い園児の保護者とも連携をとり、これからも園児の安全健康と職員の健康も守っていききたいと思います。

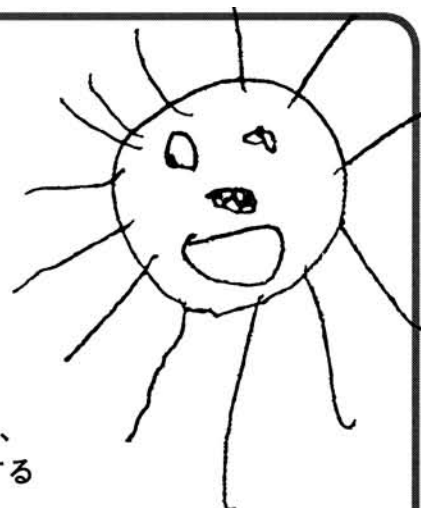
(勝浦こすもす保育園)



現在、保育園では病児・病後児保育と、大半〇・一歳児クラス担当ですが、他にも入つて一緒に給食を食べてアレルギー児の食事の状態、調子の悪い子の食べ方など、普段子供たちの中で生活を共にしている、病気の早期発見や異常にも早く気づくことができていると感じています。

家庭通信として、ほけんだよりを年六回発行し、月一回のナイチンゲールの日には、子供への保健指導をして

保育園および園児を さまざまなリスクから サポートします



保育園経営には、さまざまなリスクが伴います。
(公社)全国私立保育園連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、
保育園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する
各種保険を取り扱っております。

全私保連 保険制度

「保育園賠償責任保険」「保育園児団体傷害保険」
「特別保育事業賠償責任保険」など、
保育園経営に必要な不可欠な保険をラインナップ
しています。また、それらを総合的に補償する
セットプランもご用意しております。

園児総合保障 共済制度

保育園児を24時間補償する共済制度です。
保育者にとっては
一般に比べて割安な掛金で
補償を確保することができます。

上記以外にも、「学童保育」などの、保険を取り扱っております。
ご照会は、下記連絡先にどうぞ。

(公社)全国私立保育園連盟指定・東京海上日動火災保険株式会社・三井住友海上火災保険株式会社代理店

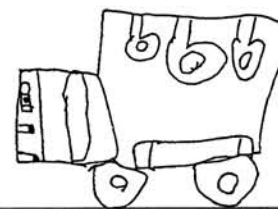
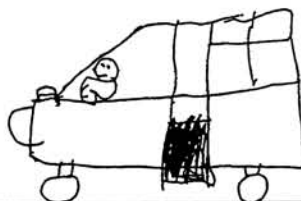
有限会社ゼンポ

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内
TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806

〈引受保険会社〉

(幹事保険会社) 東京海上日動火災保険株式会社
担当課：公務第二部 公務第一課
TEL：03-3515-4133
(共同引受保険会社) 三井住友海上火災保険株式会社

このご案内は全私保連保険制度・園児総合保障共済制度の概要についてご紹介したものです。保険の内容は本保険制度のパンフレットをご覧ください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育園連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。



子育て真っ最中！
ママ職員
圓藤 美和



夕方保育所に子どもを迎えに行く、淡々と帰りの用意をすすめる長女。四月からは、小学生です。もう小学生かと思う気持ちと、まだまだ甘えてほしいなあという気持ちがあります。保育所を出て土手の駐車場までの時間が長女との貴重な時間です。一日の話をしたり、歌を、うたったりして楽しい時間が流れていきます。が、そんな時もあつという間。実家に次女を迎えに行き玄関を開けた瞬間、

「ママ!!」大声とともに全体でぶつかってくる次女（一歳）がいます。周りの人は次女の妊娠中、五歳も年の差があるから、よく面倒みてくれるよ。と言っていていました。確かに「ママ亜美が未来の服を着せてあげたよ」と長女は次女の世話をよくしてくれます。しかし数分後「ママ、未来が亜美のお人形かえしてくれん」と泣きべそをかき、うったえてきます。ほこらしげに長女と自分の人形を両脇に抱え、うっすら笑う次女。

一人っ子で育った私には、なかなか理解しがたい光景ですが、二人で手をつなぎ布団に入る姿や二人のやりとりに、思わず大笑いしてしまう時など何ともいえない温かい気持ちになります。二人の娘達のおかげで何事にも前向きで日々笑顔でいたいなあと思えるようになりました。そして、私がこうして笑顔でいられるのも、週末になると「ママは来週から何出勤で？」と確認し、子ども達を見てくれる主

人の母。それから父や祖母、私の両親。たくさんの人に支えてもらっています。主人も娘達の「パパ!!」という声に毎日メロメロで頑張ってくれています。そして何より職場の雰囲気の良いです。園長先生始め、事務所の先生方。主任保育士という立場である私をいつも優しく受けとめ見守ってくれています。先輩、同僚、後輩の先生、いつも笑顔で話を聞いてくれてありがとう。たくさんさんの愛情に囲まれ、娘達も元気に育っています。これからも前向きに私らしく頑張っていきたいと思えます。

(みのり保育園)

すべては、子どもたちのために。

株式会社ジャクエツ

www.jakuetsu.co.jp

TEL 088-626-2110

FAX 088-626-2416

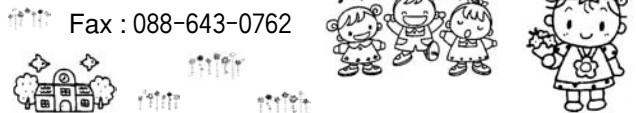
Gakken 学研

(株)学研エリアマーケット 徳島営業所

☎779-3122 徳島市国府町府中629-1

Tel : 088-643-0760

Fax : 088-643-0762





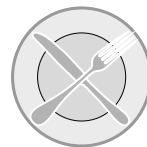
そら豆はこうやってむくよ!

「見て!ピカピカ!!」今日も残さずきれいに食べた食器を、満面の笑みで見せてくれる子どもたち。「おいしかったけん、また作ってよ。」「これ、どうやって作ったん?」「今日の魚は何?」「抱っこして!重くなつとるだろ!!」等々。ランチルームで食べる子どもと給食室の職員との間で、毎日のように会話がはずみます。この交流により信頼関係を築くことで、苦手な献立を食べる事ができるようになった子どももいます。



「いただきます」を支えて...

高志 葉子



うわ〜かぼちゃってこうなってるんだ!

この食に関わり、今年で十年目。『楽しく食事をする』を食育目標に保育士と話し合いを重ねながら、各年齢に応じた様々な食育を実施しています。

食育の原点、食べる意欲を育てる時期と位置づけている。離乳期は一人ひとりの発達に応じた離乳食を提供し、手づかみ食べを積極的にしてもらっています。一、二歳児には、毎月季節の食材に触れ合えるようにし、そら豆のさやむきやとうもろこしの皮むきを体験したり、梨やりんごの



グリーンピースっていっぱい兄弟がいるね!

皮むき、かぼちゃを目の前で切って見せたりと食材に興味を持てるような食育を行っています。三歳以上児には、グリーンピースのさやむきや栽培のほか、日本の伝統的な行事食の意味を伝えていきます。特に四、五歳児には、三色食品群分類を用いて食べる事の意味を教えたり、少人数でピラーと包丁の使い方を練習した後、皆で楽しくカレーを作って食べたりにしています。また、魚の三枚おろしを見せ、『人は命を頂いて生きている事・たくさんの人に支えられて食事が出来ている事』も知らせています。

将来、子どもたちが健康な生活を送れるように、どんな食育も管理栄養士の私が関



わっていく事で食に対する関心を高め『食べる事は楽しいんだ、大切なんだ』と実感してくれたりと思います。今後も、給食を食べる時に子どもたちが笑顔になるように、一緒に成長していきたいと思っています。

(四国大学附属保育所)



とうもろこし上手にむけたよ!!



ピーラーと包丁、上手だね



みんなで作ったカレー、おいしかったね!

あわあ保育園めぐり

板東ゆたか保育園 (鳴門市大麻町)

家長 祥江

当園は、大麻山の懐に位置し、近くの一幡札所霊山寺には、〇歳児から年長児までが散歩に出かけ、地域の方々とふれあっています。また、ドイツ館で催される地域イベントへの参加は、ドイツと日本の交流を通して、ドイツを身近に感じています。

文化の香りがする板東で、保育は昭和五十五年から三十有余年続いており、「信頼」「誠実」「創造」の基本理念でがんばっています。昨年の新園舎完成を機会に保育の歴史を大切にしながらも、子どもの姿容から、工夫していく保育が求められてきました。

四季が感じられる新しい園庭は、子どもの心を揺さぶり、様々な気づきから遊びが、広がります。

春を待つ木々の芽も膨らみはじめ、枝には、かまきりの卵を見つけ、毎日観察が続きます。クモが巣を作る様子を見たり、アゲハ蝶の幼虫が、

みかんの葉を食べ大きくなる姿を大事に見守ったりしました。季節を勘違いして咲いた花に驚き、ブルーベリーやアケビの実が熟れ味見も楽しめました。

築山では、〇歳児が頂点を見て繰り返し登ったり降りたりして挑戦しています。このように遊び込める環境・友だちとの関わり合い・見たり考えたりする場面を大切にしたい保育に取り組んでいます。

を味わい、よりゆたかに育っています。保育士も共に遊び、「なんだろう」「やってみよう」「なるほど」「一緒にしよう」と遊びが繰り返され楽しんでいます。

ある朝、園児が母親に、「先生にあいたいな。来てるかな？」と話していました。子どもと保育士の絆を感じる言葉でした。このように、一人ひとりの子どもたちに向き合い、寄り添いながら、「たのしいな。またしような。」と思えるような保育園になるよう職員一同努力していきたいと思えます。



大好きな保育士と四季を感じて (1歳児)



かえると友だちになって観察 (3歳児)



信頼をよせた保育士のもとで (0歳児)



手作り食育カルタに挑戦 (4、5歳児)



あー！雪がふってきたよ！ (2歳児)



平成25年3月新園舎完成



「よろこびのうた」をドイツ館で披露しています (3、4、5歳児)

(一面から続く)

☆あこやかに☆
大きくなあれ☆

主任保育士 瀬尾由季子
早春の柔らかな日差しの中、慣れ親しんだ園庭で機嫌よく遊ぶ子ども達の姿が見られます。

前川乳児保育園は、徳島市の中心部に位置し、一九七五年に〇〜一歳児の乳児専門の保育園として開始され、一九八六年より現在の六十名定員となりました。園舎は日当たりのよく、園庭前方には助任川、徳島中央公園、眉山など緑豊かな景観が広がり、恵まれた場所に位置しています。

子ども達一人ひとりが、清潔で安全な環境のもと、安心してその子らしく成長発達できるように、個性を大切にしたい丁寧な保育を目差し、私たち保育者と共に満ち足りた思いで毎日を過ごして欲しいと願っています。

春は、ミニトマトの苗植えやそら豆のさやむき、とうもろこしの皮むきに挑戦します。夏には、例年卒園児を招いての夕涼み会が盛大に行われるのですが、今年度は大規

模な改修工事があり、残念ながら中止となりました。秋は私立体育館での運動会、冬にはクリスマス祝会があり、一歳児クラスの子ども達全員でページェントに参加します。役に合わせた衣装をつけた姿はとっても可愛く、子ども達の成長を感じるひとときです。

大きな年間行事に加えて、毎月のお誕生会や一歳児クラスを対象に「リトミック」や「英語で遊ぼう」も取り入れ、楽しんでいきます。そして、子ども達が秋に植えたチューリップの球根がかわいい顔を覗かせ始めた今、卒園・進級のムードが漂い始め、これまでの様々な姿が思い起こされます。

保育園は、もうすぐ四十年目を迎えますが、この大切な乳児期を保育する喜びと責任の重さを感じながら、日々子ども達の健やかな健康を願っています。(前川乳児保育園)



津波想定 パークウエスタンへの避難訓練



とうもろこしの皮むき



チューリップの球根植え



トマトの苗植え



チューリップがいっぱい



みんなで楽しく公園あそび



うきうき卒園バイキング



クリスマス祝会



―編集後記―

当紙も二十一号の発行で十年目に入りました。

平成十六年の創刊号に、当広報紙の目的は「県私保連活動の一層の活性化に資する」とあります。できるだけ多くの園や職員の皆様にご参加(寄稿)いただけるよう、広報部員が一方的に記事を書くのではなく、むしろ他園からの発信を集める裏方を担ってきました。おかげさまで多様な方から、仕事の喜びや自園の素晴らしさの紹介など、幅広くご協力を得ることができました。この場をお借りしお礼申し上げます。

さて、先日の県私保連の理事会では、人材確保という喫緊の課題にも対応し、養成校の学生らに、職場としての各園の魅力を一層強くアピールできる機能を当紙に持たせてはどうか、といったご意見もいただきました。

高まるご期待に応えられまますよう工夫を重ねたく考えておりますので、今後とも応援よろしくお願いたします。

(上野)